

令和6年度 岡山県協同農業普及事業外部評価について

1 目的

多様化する農業者等のニーズに対応し、高い普及指導活動の成果を上げるためには、農業者や関係機関、団体等と担い手育成や産地育成の課題、目標、戦略、役割分担等を共有化することが重要である。

そこで、農業者や関係機関、団体等と活動経過を検討し、その結果を今後の効率的・効果的な普及指導活動に資することを目的に普及指導活動検討会(外部評価)を開催している。



2 実施概要

普及センター	開催日	報告課題	評価委員
備前広域	令和6年 11月13日	「農業の担い手の確保と青年農業者への支援」他3課題	農業者 6名 関係機関 (農協、市町他) 8名
東備	令和6年 12月20日	「鳥獣被害防止対策現地活動」他1課題	農業者 3名 関係機関 (農協、市町他) 8名
備南広域	令和6年 11月19日	「儲かるぶどう経営の確立によるぶどう産地の持続的発展」他3課題	農業者 7名 関係機関 (農協、市町他) 11名
井笠	令和7年 1月23日	「水田農業の担い手の確保・育成と大規模化に対応した栽培技術の普及」他1課題	農業者 4名 関係機関 (農協、市町他) 11名
備北広域	令和6年 11月18日	「鬼退治桃太郎トマトの産地育成と生産力強化」他2課題	農業者 5名 関係機関 (農協、市町他) 9名
新見	令和6年 11月5日	「水田農業におけるスマート農業技術の導入推進」他2課題	農業者 5名 関係機関 (農協、市町他) 9名
美作広域	令和6年 11月25日	「次代を担う若手生産者による県内最大きゅうり産地の活性化」他2課題	農業者 5名 関係機関 (農協、市町他) 10名
真庭	令和6年 11月20日	「園地集積による持続可能なぶどう産地を目指して」他2課題	農業者 4名 関係機関 (農協、市町他) 9名
勝英	令和6年 11月18日	「勝英アスパラガスのマーケティングの取組」他1課題	農業者 5名 関係機関 (農協、市町他) 13名

3 評価委員からの主な意見

(1) 備前広域農業普及指導センター

「農業の担い手の確保と青年農業者への支援」

施設の紹介や技術の伝承など、地域のバックアップを上手く受けられるよう、新しく入った人が定着できる仕組みを作っていく必要がある。

(2) 東備農業普及指導センター

「鳥獣被害防止対策現地活動」

ハンティングドローンを導入し、専門家とともに有効な活用を支援してくれた。まずはシカについて追い払いを検証し、次に巻狩などにも活用したいと思う。その他の獣害対策も引き続き協力いただきたい。

(3) 備南広域農業普及指導センター

「儲かるぶどう経営の確立によるぶどう産地の持続的発展」

ピオーネ中心からシャインマスカットに移行し、等級のバラツキが懸念される。良いものを増やすためにも、普及にはしっかりとした指導を期待している。

(4) 井笠農業普及指導センター

「水田農業の担い手の確保・育成と大規模化に対応した栽培技術の普及」

集落営農については、基本的な営農品目に野菜を加える取組が求められ、生産組織、関係機関が連携し、継続的な活動をしてもらいたい。

(5) 備北広域農業普及指導センター

「鬼退治桃太郎トマトの産地育成と生産力強化」

新規就農者の確保では、農業に取り組みたいと考えている人はまだまだ多くいる。産地維持のためにも継続して取り組んでほしい。

(6) 新見農業普及指導センター

「水田農業におけるスマート農業技術の導入推進」

ドローン導入に係る採算性（適正な経営規模）や導入後に必要な事務手続等をまとめた、農業者用の導入マニュアルがあれば参考になる。

(7) 美作広域農業普及指導センター

「次代を担う若手生産者による県内最大きゅうり産地の活性化」

共同選果場が他産地のきゅうりと同時期に選果しているため手狭になり、選果残りが出てしまう状況にあり、行政やJAに早急に整備をお願いしたい。

(8) 真庭農業普及指導センター

「園地集積による持続可能なぶどう産地を目指して」

園地の集積は良いことであるが、園地が分散すれば生育の速度が異なる品種を別々の園地で栽培できる利点もあるのでは。

(9) 勝英農業普及指導センター

「勝英アスパラガスのマーケティングの取組」

アスパラガスに限らず勝英地域農産物の認知度向上が必要では。また、1年の活動ではまだ成果が出ない部分もあるが、長い目で見る必要があるのでは。

4 結果の活用

評価委員の意見は、次年度以降の活動に反映するとともに、重要な課題については普及指導計画に位置づけることで、より効果的な普及指導活動の展開を図る。